

まもなく1月が終わろうとしています。立春まではあと少しですが、真冬並の寒さはまだしばらく続くのではないのでしょうか。寒さに加えて雪が降ると、通学路の凍結や電車の遅れなどの心配もあります。

寒さや雪の対策として誰もが心がけなければならないのは、衣類を調節して体を冷やさないようにすることと時間に余裕を持って行動することでしょう。衣類についてはコートの着用も大切ですが、手袋も効果があります。特に、手袋をすることでポケットに手を入れることもなくなりますから転倒した際に体を守ることができます。しかし、子どもたちは体を守るために大切であっても面倒だと感じるとそれを嫌がる場合があります。身近なものでは、手袋・帽子・マスクなどが思い浮かびますが、こういうものは面倒かもしれませんが、自分の体を守るのに役立つものであることを理解させ、面倒だから嫌、というのではなく大切なものだから身につけるといふ考えが持てるようになってほしいです。

## 【個人面談を終えて】

学校での子どもたちの様子をお伝えしつつ皆さんからも家庭での様子をお聞きすることで、これから協力して子どもたちを見守るための話し合いができることがこの面談の目的です。

個人面談の報告書を読んでいて、その中にいくつか気になることやなるほどと思うこと、さらには嬉しく思うことがありました。その一つに、「家で子どもに“ありがとう”と言うことが増えた」といものがありました。素敵なことですね。子どもの成長をしっかりと見ていることでこういう喜びを感じることができるのでしょうか。また、「反抗期」という言葉も何人かの報告書に出てきました。その言葉の奥にある意味は子どもの状況、親子関係などによって異なるでしょうが、確かなことはいわゆる反抗期というものがあるのはならないとかがえてはいけないということでしょう。敢えて反抗期と言うとしても、このこととしっかりと向き合うことが大事なのは言うまでもありませんが、実はその前の段階、つまり普段の生活において、親子の会話が大切にされているかどうかというようなことが問題になります。親子が友だちのような雰囲気では話せることが必ずしもよいのではなく、きちんと大人と子ども、親と子ども、年長者と年少者というある種のけじめがあって欲しいですし、子どもは大人・親に尊敬の念を持ち、大人は子どもの今を受け入れ尊重することが大切です。

大人から見れば、足りないことがいっぱいの子供たちです。だからこそなおさら可愛いし、愛おしく感じるのでしょうか。心配なことがあっても焦らないでください。面談で「子どもの叱り方が自分そっくりになってきた」というお母さんがいらっしゃったようですが、このことから分かるように、子どもたちは親・大人の影響を強く受けています。私たちは子どもを見ていて感じたこととしっかりと向き合いときには自分自身を変える努力もしなければならないでしょう。

## 【新年のメッセージ】

今年の年賀状に書いた私からのメッセージは右のようなものでした。

私には、子どもたちが家族だけでなく多くの方々に愛され、大切にされていることがいつも伝わってきます。

愛された人は自然に人を愛することができます。

やさしくされた子は自然に人にやさしくすることができます。

そのようにしてもらえることを嬉しく思い、感謝することができます。

でも、それに勝る喜びや嬉しさを感じることができるのは、自分が他者に対してそのようにしてあげることができたときではないのでしょうか。

子どもたちには、自分を見つめながらも他者への配慮を忘れないような人になってほしいです。もちろん私もそういう大人になるために努力していきます。

しんじてもらえる  
やさしくしてもらえる  
たいせつにしてもらえる  
みんなうれいこと  
でも、そうしてあげることが  
できたらもううれいよ

## 【ちょっとした心がけ】

授業中に「消しゴムのカスは集めておいてあとでゴミ箱に捨ててくださいね」と声をかけることがあります。そう言われなくてもその程度のことはきちんと意識できている子も多いのですが、思わず机から払い落とそうとしている手を止める子もいます。少し意識するだけで教室を、さらには学校を汚すことなくきれいに保つことができます。しかし、ときには机の上にたまっていく消しカスがいつのまにか遊び道具に変身してしまうこともあります。気がつくと消しカスは子どもの手でこねられてだんだんと丸くなっていきます。ねり消しというらしいのですが、それを繰り返すことで消しゴムのリサイクル活動が行われます。授業中でなければほめられる活動なのではないでしょうか。でも、きれいなものではありませんのであまりお勧めしたくないです。